

神鋼記念病院 医療講演会 ～最前線の診療～

令和時代の胃癌診療

～ H.Pylori 感染と内視鏡治療の過去・現在・未来～

神鋼記念病院 消化器内科
医長 千田 永理 先生

申込
不要

11 / 28 (木) 18:00 ~ 19:00

- ◆ 場 所：呼吸器センター 管理棟 5階 大会議室
- ◆ その他：日本医師会生涯教育講座 1単位申請しています

【講演内容】

わが国の胃癌の死亡率は減少傾向にありますが、臓器別に見るといまだ死亡率・罹患率ともに上位に位置しています。胃癌の原因は、1982年に同定されたヘリコバクター・ピロリ菌であり、現在では消化性潰瘍や癌化という病原性について分子レベルでの解明が進められています。日本では2013年に除菌療法が保険適応となり、年間150万人が除菌治療を受けています。保菌率の低下と除菌治療の普及により、今後胃癌の発生率はさらに低下することが期待されますが、その一方で耐性菌による除菌成功率の低下や除菌後の内視鏡所見の多様化などが問題点として挙げられています。

早期胃癌治療については、内視鏡的粘膜下層切開剥離術（ESD）により多くの症例が内科治療で治癒する時代となりました。当院ではこの4年間で胃のESD症例を168例経験しました。実際の症例を供覧し、当院での早期胃癌診療についてご紹介したいと思います。